

☆今年巳年、というわけではないのですが、今号のギャラリーは、鈴木博氏のハブの写真をご紹介します。周囲の環境にマッチして潜み、敵が近付くと鎌首をもたげて威嚇する様子が見事なまでに表現されています。こんな毒蛇にはかかわりたくありませんが、そのハブを捕る名人がいるというのですから驚きです。☆次回の『標本棚』のテーマは「私の料理」です。料理の腕、ご自慢のメニュー等をぜひご紹介ください。

発行 2001年6月1日(通算第12号)
発行所 アベックス産業株「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
発行人 元木 貢 (編集委員)和田芳武 白坂昭子
山口力広 三浦二郎
(事務局)西海 彩
制作協力 株式会社オービット

ギャラリー

毒蛇ハブ

作・鈴木 博
(長崎大学熱帯医学研究所助教授)

●プロフィール

鹿児島県生まれ。人間サマが勝手に有害と決めている昆虫や動物を、野外を放浪しながら採取しては、それをメシの種にしている縄文人的学者。
最近、ユスリカの採取にはまっしまい、ついこの前も、与那国島、南大東島の調査を行った。



雌

●作者寸言

故南竹一郎氏は奄美のハブ捕りの第一人者。氏の案内で、奄美中央部の「城の鼻(ぐすくのはな)」の深い照葉樹林の中を、昼間、ハブを探して歩いていた時、出会ったのが写真のハブである。最初に見つけたのは見事な金ハブで雌。そして、数十メートル離れたところにトグロを巻いていたのが雄。いずれも体長2メートルを超す大物だった。南氏は「こりや番(つがい)じゃあ」と小声で呟いた。あれから27年の時が過ぎてしまったとは……。



雄

むし籠

嫌いの深層

★第一話

Y君は将来トマト農園をやりたいと考えている。また彼は料理が好きで、中でもイタメシが得意で、自家製のトマトが本場のイタリアで通用するか試してみたいと夢見ている。

それでいてY君はトマトが苦手。特に生は大嫌い。食感と中の汁がダメなのだ。それなのに、トマト農園やトマトを素材とするイタメシに魅かれるY君の心の深層には理解し難いものがあるが、一応、加熱調理したものなら大丈夫ということで、彼自身の心には矛盾はない。

嫌いだからこそ、あえて挑戦したいというY君は自らを「けなげ」と思っているが、ひよっとしたらY君は、本人が思う以上にチャレンジ精神に溢れた大物で、実はとてもエライのかも知れない。

★第二話
K君は腕の良いベテラン社員。それでいてゴキブリが苦手である。見ただけで小娘のように「キヤー」と悲鳴をあげて逃げ回るほど嫌いだ。

憎つきゴキブリの絶滅をと、都市害虫筆頭のゴキブリ退治に挑戦する彼の心の深層は理解できなくもない。誠に健気であり、エライ。でも、ゴキブリの生息調査には、粘着トラップにかかったゴキブリの

数を調べるトラップ法が不可欠だ。

その時K君はしっかり目を開けて数えているのだろうか。ちよっと心配だ。K君、大丈夫だよな!

PC業務に車は必需品。新人採用には運転免許の保持が条件になっているが、入社してくるのはベテランドライバーとは限らない。当然、交通事故防止には力を入れ、新人教育時の運転講習は重要なカリキュラムの一つになっている。

同乗した先輩が「いやあ、恐ろしかった」というM君のような若葉マーカーの新人もいれば、T君のように車庫入れを三時間やって、一度もうまく出来なかったという例もある。

一方、慣れたら慣れたで、今度はスピード違反やら、接触事故で皆に迷惑をかける者も出てくる。

以前、カーレーサー経験者が入社した時などは、レースまがいなタイヤをきしませた運転が流行し、大変心配させられた。

幸い、経験と歳を重ねることで、無茶な運転はしなくなってくるが、その代わり、車の上や駐車場に作業道具を置いたまま、忘れて出発してしまうケースが目立つようになる。

アーア、心配の種は尽きません。

それ以外の種類では、噛まれても痛みは弱く、主に不愉快虫としての側面が強い。

【駆除】家屋内に出没したものに對してはゴキブリ用エアゾールの直接噴霧が有効とされるが、実際は効果の発現が遅くなかなか死なない。結局叩き潰すのが一番であるが、蟬叩き程度では潰れない。

屋内への侵入を防止するには、家の周りの草むらや石垣、瓦礫、廃材などの隠れ家を作らないことと、これらの隠れ場所や家の壁面などに有機リン系殺虫剤を残留処理しておくことが有効。

【プロフィール】いくつかの種類は強力な毒を持ち、噛まれると数日間、劇痛に悩まされる。昼間は瓦礫の下など暗く湿った所に潜んでいるが、夜になると餌を求めて徘徊する。

噛み付いて害を与える反面、多くの家屋害虫の捕食するため益虫の面もある。

【種類】国内において咬傷被害があるのは、主にトビズムカデとアオズムカデの二亜種。

前者は体長15cmほどで黒緑色の体に赤い頭、黄色い21対の脚が特徴。後者はやや小型で体長10cmほど。頭も体も黒緑色を呈し脚は橙色。

おじゃま虫

ムカデ



虫めがね

☆二月六日の新聞に「埼玉県立の学校や公園などでネズミや害虫駆除を目的とした薬剤散布を制限する」という報道があった。

「害虫が発生した場合でも、わななどの仕掛けなどで対応し、やむを得ない場合だけ最少限の散布を実施するが、環境ホルモンを含む農薬は使用しない。さらに、ネズミや害虫の発生を防止するために、ゴミの放置防止や清掃を徹底する」という。

一方、ビル管理法には「ネズミや害虫の防除を統一的、かつ計画的に行うこと」とあり、食品衛生法や労働安全衛生法、学校保健法などでも「施設の清潔保持のため、年二回以上の駆除を行うこと」と定めている。

食中毒や感染症を予防し、かつ薬剤の弊害を阻止するためには、単に殺虫剤を散布するのではなく、正しい薬剤知識を持ち、侵入防止や発生予防のための清掃、食品やゴミの管理、調査により害虫生息状況の把握を行い、さまざまな方法を組み合わせることで効果的に対処して行くことが必要になる。一層の防除技術の向上と管理体制の強化が望まれるところだ。

＊環境ホルモンとは、内分泌かく乱作用の疑いがある化学物質で、殺虫剤や除草剤など67種がリストアップされている。

それ以外の種類では、噛まれても痛みは弱く、主に不愉快虫としての側面が強い。

【駆除】家屋内に出没したものに對してはゴキブリ用エアゾールの直接噴霧が有効とされるが、実際は効果の発現が遅くなかなか死なない。結局叩き潰すのが一番であるが、蟬叩き程度では潰れない。

屋内への侵入を防止するには、家の周りの草むらや石垣、瓦礫、廃材などの隠れ家を作らないことと、これらの隠れ場所や家の壁面などに有機リン系殺虫剤を残留処理しておくことが有効。

おじゃま虫

ムカデ